

こども未来課通信 No. 28

2024. 1. 23 発行:長崎県こども未来課

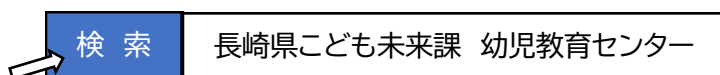


～今年もよろしくお願いします！～



2024年がスタートしました。4月にスタートしてから、10か月経ちますが、園や市町のこども部局・教育委員会など、幼児教育に携わる方々との関わりも増え、幼児教育センターとしての活動を充実させることができました。これからも園訪問などを通して、みなさんの要望にお応えしながら、保育・教育の質の向上を目指して邁進してまいります。

今年も保育についてのアドバイスや園内研修など保育の質の更なる向上に向けてアドバイザーを御活用ください。まずは、ホームページから依頼書をダウンロードしてお申し込みください。



(幼児教育センター直通 095-895-2686)



～保育って奥深くておもしろい～

南島原市保育会から「子どもの遊びの本質について学びたい」と依頼をいただきました。70名ほどが集まり、講義とペアトークやグループトークを取り入れた研修を行いました。長い人生の土台になるのが幼児期であり、子どもたちに「幸せに生きる力」をつけてあげたいと思います。そのためには、させられるのではなく、子ども自らがしたいと思って存分に遊ぶことがどんなに大事か・・・感想を読むと、しっかり受け止めてくださったことが感じられました。

＜参加者の感想より＞

午前中の1時間程度であるが、設定保育を行っている。「設定保育なし」には一度に変えることは難しいので、まずは、午後の時間を子供主体で環境設定をしていこうと考えた。大豆生田先生の話にでてきた、ショー的要素が強い行事も見直す勇気が必要と痛感した研修会だった。

今からの子供たちの成長に、保育者がどのように関わっていくかが大事か改めて学んだ。どちらかと言えば設定保育中心だが、子供の主体性を大事にし、遊びを通して非認知能力を高められるような関わりをしていきたい。

日々の環境構成を振り返ることができた。子どもの人生の中でも保育の6年が一番大切だと聞いて、改めて保育を見直すことが大事だと感じた。子供たちは日々勉強をされていて、そのアドバイス、手助けをするのが保育者であり、子供の主体性を伸ばすことを考えなくてはならない。私たちの園での遊びを職員全体で話し合い、見直すことが大事だと思った。

～指導・保育要録「取り扱い及び記入の手引き」を改定しました！～

今年度も残すところあと約2か月となりました。そろそろ次年度への進級・進学へ向けて指導・保育要録の作成に取り掛かる時期ではないでしょうか。最近、幼児教育センターにも、要録の記入に関するお尋ねが増えてきています。各団体から依頼があっている研修会でも「指導上参考になる事項」欄を中心に表記・体裁や内容について研修を行っています。切れ目のない支援へつなげるために、子供の育ちをしっかりと記述してほしいと思います。

平成30年12月、国から示された要録の参考例を基に、長崎県として3つの様式に統一性をもち、様式の参考例と「取り扱い及び記入の手引き」を作成しました。取扱いや記入

の仕方についての基本的な考え方をまとめて示すことで、小学校等へ入学する前の教育・保育の場に違いがあっても、共通の視点で子どもの育ちを捉えると共に、統一した情報提供として、支援の継続ができるようになっています。

そして、今回、園務の情報化の推進にあたり、指導要録の原本の電子化や押印省略について付加し、5年ぶりに改定を行いました。今月中には、各園に所管課からPDFデータで送付されると思います。（佐世保市は独自の様式があるため、佐世保市幼児教育センターに参考として送付いたしました。）各園、最低1冊は紙媒体で保存し、この学年末に差し掛かる時期や転入・転出があった際に、すぐに手に取って確認することができるようにプリントアウトすることをおすすめいたします。

（文責：こども未来課 高田 敦）

幼稚園幼児指導要録
認定こども園園児指導要録
保育所児童保育要録

取り扱い及び記入の手引き
（第2版）

令和6年1月
長崎県こども政策局

手引きの表紙

幼児教育センターより 「こども大綱」

令和5年は世の中が「こどもまんなか社会」に大きく舵を切った年でした。令和5年12月22日にはこども大綱が策定されました。その中で、「ライフステージを通した重要事項」として以下の文が掲げられています。

「遊びや体験活動は、こども・若者の健やかな成長の原点である。例えば、こどもが遊びに没頭し、身体の諸感覚を使い、自らの遊びを充実、発展させていくことは、言語や数量等の感覚などの認知的スキルや、創造力や好奇心、自尊心、想像力や思いやり、やり抜く力、折り合いをつける力などの社会情動的スキルの双方を育むことに加え、多様な動きを身に付け、健康を維持することにつながり、ひいては、生涯にわたる幸せにつながる。こういった遊びや体験活動の重要性、学びへのつながりや、その機会を保障することの重要性を改めて認識した上で、（後略）」

どうぞ、子どもが好きな遊びに没頭できる環境と時間をつくってあげてください。

（副センター長 室野）

